

臨床医学研究のお知らせ

国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センターでは、将来の医療を向上させるため、聖路加国際病院と共同で臨床医学研究を行っています。つきましてはご理解の上、ご協力をお願い申し上げます。なお、個人情報 は 厳重に管理させていただきます。

研究計画や研究方法に関する資料をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体の目的や進行に支障となる事項以外はお知らせすることができます。ご質問がありましたら下記連絡先にお問い合わせください。

この調査では、ご協力を拒否することも自由です。もし、研究へのデータ・試料の利用を望まない場合は、下記の連絡先までご連絡いただくか、医療スタッフへ申し出てください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】

住所：〒162-8655 東京都新宿区戸山 1-21-1
国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター
電話：03-3202-7181（代）
理事長：國土 典宏
担当者の所属・氏名 小児科・望月 慎史

【研究責任者】

国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター 小児科・望月 慎史

【研究代表者】

聖路加国際病院 小児科 小野 林太郎

EBウイルス、サイトメガロウイルス、単純ヘルペスウイルス抗体保有率の経年変化についての検討

1.研究の対象

- 1) 2010年4月1日から2025年3月31日の期間にEBウイルス、サイトメガロウイルス、または単純ヘルペスウイルスに関する抗体検査（採血での検査）を実施した方
- 2) 同期間中、EBウイルス感染症、サイトメガロウイルス感染症、または単純ヘルペスウイルス感染症の診断がされた方

2.研究の目的・方法

EBウイルスやサイトメガロウイルス、単純ヘルペスウイルスは、多くの方が子供の頃に自然と感染するウイルスです。しかし、生活環境の変化により、近年は感染しないまま大人になる方が増え、思春期以降に初めて感染して症状が重くなることが懸念されています。

本研究では、2010年4月1日から2025年3月31日の期間に当院でこれらのウイルスの抗体検査を受けられた方の診療録（カルテ）の情報を利用させていただきます。過去の検査結果や年齢、性別などの情報を分析し、どの年代の人が抗体（免疫）を持っているかの割合が、時代とともにどう変化してきたかを調べるのが目的です。

調査期間は当法人 研究機関の長による実施許可後～2027年3月31日までの予定です。該当データの利用開始は、**2026年3月1日**を予定しております。

3.研究に用いる試料・情報の種類

診察券番号、性別、年齢、生年月、入院・外来の別、既往歴、基礎疾患、EBV・CMV・HSV感染症関連の病名登録の有無、診療科（検査をオーダーした診療科）、血液検査結果（VCA-IgG等のウイルス抗体検査結果を含む）等。
氏名、住所等の個人情報の収集は行いません。

4.外部への試料・情報の提供

代表機関へのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で、記録媒体により行います。データと研究の対象の方との対応させた表は、当院の研究責任者が保管・管理します。

5.研究組織

【研究代表者】 小野 林太郎 （聖路加国際病院 小児科）

【共同研究機関・研究責任者/研究分担者】

植木 将弘・寺下 友佳代・平林 真介（北海道大学 小児科）
工藤 耕（弘前大学医学部附属病院 小児科）
川原 勇太（自治医科大学附属病院 小児科）
塩田 曜子（国立成育医療研究センター 小児がんセンター）
松井 俊大（国立成育医療研究センター 感染症科）
田中 克侑（東京慈恵会医科大学 小児科学講座）
望月 慎史・水野 貴基（国立国際医療センター 小児科）
井上 恭兵（東京歯科大学市川総合病院 小児科）
坂本 謙一・古井 優（信州大学医学部附属病院 小児科）
師川 紘一（長野県立こども病院 血液腫瘍科）
伊川 泰広・岡田 直樹・藤澤 麗子（金沢医科大学 小児科）
安江 志保・小関 道夫・遠渡 沙緒理（岐阜大学医学部附属病院 小児科）
大封 智雄（滋賀医科大学医学部附属病院 小児科）
藤野 寿典（大阪赤十字病院 小児科）
濱端 隆行（倉敷中央病院 小児科）